

北イタリア治安情勢通報

～ ミラノ市内の空き巣は減少傾向にあるものの、
引き続き十分な防犯対策を！～

ミラノ市内にお住まいの方、引き続き**空き巣に御注意**ください。
先般の地元紙によれば、ミラノ市内の空き巣被害は概ね減少傾向にあるとされていますが、まだまだ発生件数は多く、特に **Bande Nere 駅周辺の地区**では、**増加傾向**にあるようです。また、実際に**邦人宅の被害**についても報告を受けております。



先日、この地区を管轄する治安当局から話を伺ったところ、まずは**自己で十分な防犯対策**を講じ、その上で**ご近所との良好な関係を形成**し、防犯体制を強化する必要性を訴えておりました。

空き巣の被害に遭うと単なる財産的な損害にとどまらず、精神的なショックを受け、自宅にいつ誰かが侵入してくるか分からない不安を抱くことになり、その後の生活に多大な影響を与えかねません。

以下の防犯対策は、当地の治安当局からの助言及び日本警察の防犯対策を参考にしております。

「自分に限って被害に遭うことはない」との**楽観主義に陥ることなく**、今一度、御自宅を再点検していただくとともに、平素からの防犯対策により「泥棒に狙われない家」にしましょう。

1. 空き巣に狙われやすい家（引越し前の方はご参考に。現在これら条件に合致する方は対策を）

- **アパートの地上階、1階（日本の1階、2階）及び最上階**
物理的アクセスが容易な階。最上階は、屋根からベランダに降りて侵入される可能性あり。
- **家周辺の人通りが少ない、外部から死角になっており人目につかない**
人目に付かない家は、空き巣に入りやすく、侵入しても発見されづらい。
- **外壁に空き巣の足場となるような物が付属している**
外壁に付属する物を伝わり、ベランダから侵入される事案が発生している。
- **玄関錠のタイプが古い、一つしかついていない**
古いタイプの錠は、空き巣が解錠方法を把握している場合がある。また、空き巣は短時間で侵入したので錠が少ない方が狙われやすい。

2. 空き巣犯の行動

- **犯行前に下見を行う**
留守か否かを調べるため、インターホンを押して室内の様子をうかがったり、最近の手口では、玄関ドアの開閉部分に接着剤様のノリを糸状に伸ばして付着させ、切れた（ドアの開閉があった）ら在宅、切れなかったら不在とみて犯行に及んでいるものもある。
- **空き巣犯は短時間で侵入しやすい家を狙っている**
空き巣犯は、70%は5分であきらめ、90%は10分であきらめる傾向にある。空き巣は「鍵開け3分、物色5分」と言われ、素早く侵入、素早く逃走したいので、「1.」のような家を探している。

3. 防犯対策

- ✓ ピッキングに強い新しいシリンダー錠へ取り替える。錠が一つの場合は、もう一つ取り付ける。
- ✓ 錠扉の活用、ガラス窓への防犯フィルムの貼付、防犯灯、センサーライト、警報ブザーを取り付ける。
- ✓ 短時間であっても外出時は、玄関ドア及び窓を確実に施錠する。
- ✓ 万が一の被害を最小限にするため、貴重品そのものや金庫の鍵を隠す。
- ✓ 長期間留守にする場合は、集合郵便ポストを空にし、新聞を定期購読している場合は一時止める。
- ✓ 近隣者と良好な関係を維持し、不審者発見の際は、警察に速報できる体制を構築する。

本通報に関する問い合わせ先

総領事館代表電話：02-6241141 info@ml.mofa.go.jp